

# 平成26年度事業報告書

## 事業の概要

平成26年度は、次の事業を実施した。

### 1. フォーラム「メンタルヘルスの集い(第29回日本精神保健会議)」の開催

今回の「メンタルヘルスの集い」では、急速に注目が高まっている発達障害を取り上げた。発達障害とされる人々は、「良好な人間関係が作れない」、「考え方に柔軟性がない」、「コミュニケーションが苦手」、「自己抑制が苦手」などの特徴があり、社会に様々な話題を提供している。発達障害は広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害などを含み、もともと小学校低学年で適応の悪さが問題化していたが、近年では子どもだけでなく大学生や社会人でもこの問題に悩む人が少なくなく、職場や地域で看過できない事態を迎えている。発達障害は、環境や周囲の対応で当事者や家族の置かれる状況は大きく異なる。発達障害そのものではなく、当事者や周囲が感じる社会的不適応をどれだけ少なくすることができるかが重要と考え下記の内容のフォーラムを実施した。

実施にあたっては市川宏伸(本会理事)を委員長に、藤井克徳(本会理事)、上別府圭子(本会理事)、日詰正文(厚生労働省発達障害専門官)、田中裕一(文部科学省特別支援教育調査官)の各氏に準備委員を委嘱した。

なお、本フォーラムは「平成26年度健康や命を守る医療の活動事業」として公益財団法人JKAより競輪公益資金の補助を受けて実施した。

#### メンタルヘルスの集い(第29回日本精神保健会議)

日時:平成27年3月7日 10:15~16:00

場所:有楽町朝日ホール(東京都千代田区有楽町2-5-1)

テーマ:もっと知って下さい!私たちのこと~発達障害者のニーズと理解~

内容:特別講演 わかったようでわかっていない大人の発達障害

加藤進昌(公益財団法人神経研究所理事長)

:シンポジウム もっと知って下さい!私たちのこと

~発達障害者のニーズと理解~

#### シンポジスト

渡壁典弘(大学職員 東京大学農学生命科学研究科)

村上由美(言語聴覚士 認定コーチングスペシャリスト)

石隈利紀(筑波大学副学長・附属学校教育局教育長)

加藤潔(札幌市自閉症者自立支援センターゆい所長)

堀江まゆみ(白梅学園子ども学部発達臨床学科教授)

#### コメンテーター

加藤進昌(公益財団法人神経研究所理事長)

コーディネーター

市川宏伸（東京都立小児総合医療センター顧問）

総合司会 池田真理（東京大学大学院助教）

参加者：475名

このフォーラムの内容は本会の広報誌「心と社会」160号（平成27年6月発行）に収録する。

## 2. 精神保健シンポジウムの開催

全国の主要都市において、その地域の大学・精神保健関連団体と共催で、地域が直面する精神保健に関する課題等をテーマにシンポジウムを開催しているが、本年度は下記のとおり実施した。

### ①第65回精神保健シンポジウム（米子）

日時：平成26年7月19日 13:30～16:00

会場：鳥取大学医学部記念講堂（米子市西町86）

共催：鳥取大学医学部精神科（兼子幸一教授）

テーマ：うつ病の理解のために

：基調講演

「うつ病概念の混乱」

松村博史（鳥取大学医学部精神科助教）

：シンポジウム

「子どものうつ病」

佐竹隆宏（鳥取大学医学部精神科助教）

「アルコールとうつ病」

石田寿人（いしだ心のクリニック院長）

「うつ病の最新トピックス」

岩田正明（鳥取大学医学部精神科講師）

「抑うつ状態の多様性と適切な治療」

兼子幸一（鳥取大学医学部精神科教授）

：総合討論・質疑応答

総合司会 兼子幸一（鳥取大学医学部精神科教授）

参加者：182名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」158号（平成26年12月15日発行）に収録した。

### ②第66回精神保健シンポジウム（奈良）

日時：平成26年9月13日 14:00～17:00

会場：東大寺総合文化センター金鐘ホール（奈良市水門町100番地）

共催：奈良県立医科大学精神医学講座（岸本年史教授）

テーマ：発達障害者が地域で働くために～教育と就労支援～

内容：基調講演

「思春期から成人期の発達障害の理解」

飯田順三（奈良県立医科大学看護学科人間発達学教授）

シンポジウム 学校生活から就労までの支援

「発達障害に対して医療ができること」

根来秀樹（奈良教育大学教育学部障害児医学分野教授）

「やってみたいことからはじめよう～学校生活から就労までの支援～」

山本敏久（奈良県教育委員会事務局学校教育課主幹）

「発達障害者の働くまでの支援：支援から見えてきたもの」

中村匡志（奈良県発達障害支援センターでいあー相談員）

「発達障害がある方の就労支援の実際」

新谷正樹（奈良障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー）

総合討論

座長 岩坂英巳（奈良教育大学教育臨床分野教授）

飯田順三（奈良県立医科大学看護学科人間発達学教授）

総合司会 岸本年史（奈良県立医科大学精神医学講座教授）

参加者：263名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会 159号」（平成27年3月16日発行）に収録した。

### 3. 広報誌「心と社会」の発行

今日の精神保健福祉が直面する重要課題を取り上げるとともに、国内や海外の精神保健福祉に関する最新情報を掲載した広報誌「心と社会」を次のとおり発行した。

なお157号と158号は「平成26年度健康や命を守る医療の活動事業」として公益財団法人JKAより競輪公益資金の補助を受けて、各600部を追加発行し関連団体・施設等に配布した。

①156号（平成26年6月16日発行） 168頁 2,000部

特集 メンタルヘルスの集い（第28回日本精神保健会議）

「精神障害のある人の自立支援とこれからの社会

～すべての人にやさしい街づくり～」

②157号（平成26年9月16日発行） 158頁 2,600部

特集 DMS-5発行にともなう病名変更と診断基準の変更

③158号（平成26年12月15日発行） 136頁 2,600部

特集 第65回精神保健シンポジウム（米子）

「うつ病の理解のために」

④159号（平成27年3月16日発行） 144頁 2,000部

特集 第66回精神保健シンポジウム（奈良）

「発達障害者が地域で働くために～教育と就労支援～」

4. 精神保健福祉関係冊子の出版

格差とメンタルヘルスに関連した問題を取り上げる「こころの健康シリーズ VI格差社会とメンタルヘルス」(B5判8頁)を以下のように発行した。なお、発行後はホームページに掲載し閲覧できるようにした。

①No.5 犯罪被害者とメンタルヘルス

認定 NPO 法人大阪犯罪被害者支援アドボカシーセンター  
専門相談員 大岡由佳 著  
平成 26 年 6 月発行 3,000 部

②No.6 単身者の社会的孤立防止への課題

NPO 法人自立支援センターふるさとの会 滝脇 憲 著  
平成 26 年 9 月発行 3,000 部

③No.7 子どもの養育環境とメンタルヘルス

長野県佐久総合病院心療内科 藤井 伸 著  
平成 26 年 12 月発行 3,000 部

④No.8 青少年の社会的自立とメンタルヘルス

～社会的養護と今日の子ども家庭をめぐる課題～

社会福祉法人山梨立正光生学園 理事長 加賀美尤祥 著  
平成 27 年 3 月発行 3,000 部

5. 第 9 回国際早期精神病学学会(精神疾患の予防と早期治療に関する国際会議 2014)及び第 9 回国際早期精神病学学会開催記念市民公開講座の開催

日本精神保健・予防学会、一般社団法人日本社会精神医学会、公益社団法人日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会、日本神経精神薬理学会、一般社団法人日本臨床精神神経薬理学会の学術 6 団体からなる「精神疾患の予防と早期治療に関する国際会議 2014 組織員会」と共催して「精神疾患の予防と早期治療に関する国際会議 2014」を以下のとおり開催した。合わせて、本国際会議開催を記念して記念市民公開講座を日本精神保健・予防学会とともに開催した。

本国際会議では、精神疾患全般に対し早期発見していく意識を共有し、発病を遅らせることができれば当事者の人生を変え社会生活を維持していくことが可能になるとし、早期発見・治療に地域や社会全体が連携して取り組む必要を確認した。また、市民公開講座では教育評論家の尾木直樹先生が「子どもの心を育てる大人の関わり方」として、自立からほど遠い子どもを自立へ導く親の役割について講演した。

なお、本会議及び記念市民公開講座の開催にあたっては、平成 25 年度から 26 年度にわたり特別寄附金を募集して費用に充当した。

第9回国際早期精神病学会（精神疾患の予防と早期治療に関する国際会議 2014）

会 期：平成 26 年 11 月 17 日～19 日

会 場：京王プラザホテル 東京都新宿区西新宿 2-2-1

内 容：シンポジウム 24 口演 108 ポスター403

参加者：748 名（内：日本人 188 名）

参加国：アジア太平洋 12 欧州 16 北米 3 南米 1 アフリカ 1

第9回国際早期精神病学会開催記念市民公開講座

日 時：平成 26 年 11 月 16 日（日）14：30～16：00

会 場：早稲田大学大隈講堂大講堂

テーマ：子どもを育てる大人の関わりかた

～自己肯定感と共感力を考える～

内 容：講演 尾木直樹（教育評論家・法政大学教職課程センター教授）

対談 尾木直樹

岸本年史（奈良県立医科大学精神医学教室教授）

参加者：550 名

6. 公益社団法人日本精神保健福祉連盟の一員として国内の精神保健福祉諸団体と協力した。また、広報誌「心と社会」の海外ニュース欄にて世界の精神保健関連情報を紹介した。WFMH日本支部と情報交換を行った。